

## 平成28年度 入学試験問題

# 国 語

(50分・100点)

受験 番号		氏  名	
----------	--	------------	--

### 注意事項

- ① 監督の指示があるまで中を開けないこと。
- ② 解答は、全て「解答用紙」に記入すること。  
※ 字数制限がある問題は、句読点・記号も字数に含む。
- ③ 質問（印刷不明のところ）がある、鉛筆などを落とした、トイレに行きたくなった、気持ちの悪くなった、などの場合は静かに手をあげること。
- ④ 携帯電話は、音が出ないように電源を切るかバッテリーをはずし、カバンにしまっておくこと。



名古屋経済大学市邨中学校

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ワラビは地下茎の形で冬の寒さをしのぎます。春に地上に出て食用になるのは、丸く巻いた葉っぱの部分です。葉っぱには、茎がついているかのような印象がありますが、あれは茎ではありません。葉っぱを支える長い柄で、「葉柄」といわれるものです。茎は、土の中に隠れたままで、姿を見せません。

地下茎のおかげで、この植物は冬の寒さをしのぎます。(Ⅰ)、それだけでなく、除草剤からも、からだを守ることができません。この植物は、春に山菜として食する人には好かれますが、繁殖力が旺盛なために、嫌われることが多いのです。

(Ⅱ)、地上部に除草剤をかけられることが多いのです。すると地上部は枯れます。しかし、土の中の深くに伸びている地下茎は枯れません。除草剤は、地下茎のある深さまで、それを枯らすような濃度で浸透しないからです。

① 地下茎の恩恵は、それだけにとどまりません。ワラビはシダ植物です。シダ植物は、ふつう、じめじめした日陰で育つものですが、ところが、ワラビはそんなにじめじめしていない場所でも育っています。ワラビはシダ植物らしくない場所でも生きていけます。

② 地下茎が土の中にあり、土の中には水分が多くあるからです。ドクダミは、ドクダミ科の植物で、暖かい地方にアセイイクします。湿りけのある庭の片隅や、道端で、イ群生して育ちます。地下に茎があつて、横に伸び広がついています。葉っぱは心臟形で、葉っぱのまわりや葉柄は赤みを帯びています。

群生している場所には、この植物のほのかな香りが漂います。葉っぱを揉むと、ウドクトクの強い匂いが出ます。この特有の臭気のため、「毒が入っている」という意味で「毒溜め」といわれたのが、名前の一つの由来です。この香りの成分は、「デカノイルアルデヒド」です。抗菌や殺菌の作用があり、虫たちには嫌な香りです。

(Ⅲ)、この植物は、抗菌や殺菌作用をもつので、「毒を消す」という意味で「毒を矯める」といわれました。この「毒矯め」から、「ドクダミ」とよばれるというのが、名前の別の由来です。葉をお茶にしたドクダミ茶は、「動脈硬化を予防したり、利尿作用があつたりする」といわれます。このときの成分は「クエルシトリン」などです。暑い夏の前の五月〜七月にエサイシユした葉っぱに、この成分は多く含まれています。

③ ドクダミは、地下茎が土の中で、冬の寒さをしのぎます。といっても、ドクダミの地下茎は、冬の寒さを土の中で耐えているだけではなさそうです。この植物が生えている場所を観察していると、春になって、前の年の秋には出ていなかったところに、オ新芽がでてきます。ということは、冬の間に地下茎が枝分かれして伸びているということです。冬は寒いといつても、土の中はそんなに寒くないので、そんなことがあつてもふしぎではありません。

土の中の地下茎は、冬の寒さを避けるだけではありません。春から秋まで、土の中に地下茎が隠れて、からだを守っています。だから、地上部のドクダミを摘み取つても、すぐに芽や葉が出て

きます。

また、ワラビと同じように、この植物にも除草剤がかけられることが多く、地上部は枯れます。しかし、除草剤は土にしみこむと濃度が薄まります。だから、土のなかで栄養を蓄え深くに伸びている地下茎は枯れずに生きのびます。

スギナは、地下茎で、冬の寒さをしのぎます。そして、春に、芽が出てきます。夏には、土がカラカラに乾いた場所でも育っています。地上部の土は乾いていても、土の中には水分があります。土の中にある地下茎のおかげで、夏の暑さによる水不足にも強いのです。

地上では、細い葉が細かく茂りますが、そんなに大きくありません。ですから、抜き取れば除草できるような印象があります。ところが、土の中の地下茎は長く深く伸びています。その根に支えられて、スギナは地上に生えているのです。

動物に地上部を食べられても地下茎を食べ尽くされることはありません。だから、芽や葉が出てきます。私たち人間に刈り取られても、土の中を深く長く伸びている地下茎をすべて引き抜かれることはありません。そのため、すぐに芽や葉が出てきます。

このように、地下茎が地面の深くにあり、地上部を引きちぎったり、動物に食べられたりしても、絶えることはありません。地上のスギナを除草剤で枯らしても、栄養をもった地下茎は土の深くにいて生き残ります。そのため、根絶するのはむずかしい「嫌われもの」として、自然の中を生きのびてきた植物なのです。

ところが、最近、スギナは都市部ではどんどん姿を消し、私たちが容易に出会える身近な植物ではなくなりつつあります。そのためか、古くからいわれている「ツクシ誰の子、〇〇〇の子」の〇〇〇の中に正しい名前を入れられない若い人が多くいます。ツクシを知らない人もいますから、当然かもしれません。ツクシを知っている人でも、「絵や写真で見ただけで、実物を見たことがない」という人が多いのです。

「〇〇〇は、スギナです」と正解を答える人もいます。でも、「名前は知っているが、本物を見たことはない」という場合が多いのです。スギナは「杉菜」とかかれるように、スギの木葉っぱに似た植物です。特に人目をひくような姿ではありません。

だから「スギナを見たことがある」という人に、「花を見たことがあるか」と意地悪く尋ねると、「花を見たことはない」という正直な答えが返ってきます。こう答えながら「スギナの花ってどんなのだろう。ぜひ、見てみたい」と思っている人も多いらしく、「スギナに花って咲くのですか」と尋ねてくる人は少なくないのです。「スギナは、シダ植物なので、花を咲かせない」ということが、知られていないこともあるのです。

一昔前なら、ほとんどの人に「ツクシ誰の子、スギナの子」として、ツクシとスギナの関係が知られていました。しかし、近年は、強いはずのスギナが、私たちのまわりから姿を消しているのです。そのため、春にツクシが出る場所が、どんどん減ってきています。

スギナが都市部ではほとんど姿を消しているのは、私たち人間の仕業です。ビルを建設するために、あるいは高速道路の橋脚を建てるために、掘削機で、スギナの地下茎がある土の深さ以下にまで、土を掘り取ってしまうのです。土の中で、寒さや除草剤からも、からだを守っているスギナもさすがに耐えられません。

郊外に出向くと細々と生きているスギナに出会います。そんなとき、「今私たちが姿を消しても、人間の生活には何の影響もないでしょう。でも、長い間いっしょに暮らしてきた私たちが今なぜ姿を消さねばならないのか。姿を消すことが何を意味するのか考えてほしい」と訴えているように感じます。

（「植物はすごい 生き残りをかけた仕組みと工夫」田中 修）

(一) 波線部アからオの漢字は読みを、カタカナは漢字をそれぞれ答えなさい。

(二) ( I ) から ( III ) にあてはまる言葉を次のアからオの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア しかし    イ また    ウ だから    エ 例えば  
オ そして

(三) ① 地下茎の恩恵 とあるが、ワラビに関しては何にどのようなものがあるか。本文中から三つ探しそれぞれ簡単にまとめて答えなさい。

(四) ② ドクダミ の名前の由来を本文中から二点探し、書き抜きなさい。

(五) ③ ドクダミの地下茎は、冬の寒さを土の中で耐えているだけではない。とあるが、他には何をしているのか、この段落より後から十五字以内で抜き出して答えなさい。

(六) ④ 根絶するのは難しい「嫌われもの」とあるが、なぜスギナがこのようになったのか答えなさい。

(七) ⑤ スギナは都市部ではほとんど姿を消し、私たちが容易に出会える身近な植物ではなくなりつつあります。とあるがそれはなぜか。本文中の言葉を使って四十五字以内で具体的に説明しなさい。

(八) ⑥ 意地悪く尋ねる とあるが、この質問がなぜ「意地悪」なのか。その理由を答えなさい。

(九) 本文の構成について最も適当なものを次のアからエの中から選び、記号で答えなさい。

ア 前半は地下茎を持った植物のすごさについて述べられており、後半ではその力を上回ってしまった人間の力の偉大さについて述べられている。

イ 前半では地下茎を持つ植物の力について述べられており、後半ではその力が弱まっていることについて述べられている。

ウ 前半では植物の力の源について述べ、後半では人間の力の源について述べている。

エ 前半では植物の力が弱まってきた背景をのべ、後半ではその原因と解決策について述べている。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「おい、奥田克久」

やたらフルネームでよばれる日だ。帰り支度をしていた克久に声を掛けたのは相田守だった。嫌なやつが声を掛けてきたものだ。どうして、また、こいつと同じクラスにならなければいけないんだと、気が重くなるほど相田守が苦手だった。

苦手ならさっさと逃げ出せばいい。それが克久の方針にも合っている。が、①相田の絶えずあいまいに微笑を浮かべた表情に出会うと、動けなくなってしまう。

「おい、サッカー部を見に行こうよ」

相田と目が合ったとたんに、彼のペースに巻き込まれた。イヤな感じだ。克久には強引に聞える相田の声が、ある種の大人たちには元気の良い少年の声に聞こえる。時にはリーダーシップがあ

ると評価された。人を巻き込むタイミングを心得ている点では、リーダーシップがあると言えるのかもしれない。

「サッカー部に入るつもりなの？」

おずおずと聞くとところが、ペースに巻き込まれた証拠だった。

「そうだな。親がサッカー部か野球部に入れて言ってるんだ」

相田ならサッカー部でも野球部でもレギュラーのポジションを確実にものにできるだろう。グラウンドから「ハナチュウ、ファイト、ファイト」という掛け声が聞こえて来た。仮入部期間で、学校生活の目的がある生徒はそれぞれ思うところの部活に参加していた。

既視感。前にも同じようなことがあった。相田が克久を誘って、誘いにのった克久は、

「お前、クサイな」

と言われた。それがどんな事情だったのか、詳しくは思い描けない。真面目過ぎるとか、偽善的だとか、うそくさいという意味の俗語であるクサイを相田は鋭利な刃物みたいに使う。ぐさりとくるのだ。ぐさりときた感じだけが残っていて、あとは全部、忘れていた。同じことを繰り返しているのかもしれない。

克久は放課後の時間を仕方なしに、相田につき合っつてサッカー部を見学した。

「玉、ころがして、おもしろいのかな」

相田は帰り道でそんなことを言った。言葉の外で克久に同意を求めると言い方だった。相田が親分、克久が子分という間柄を作る



スピードで追い抜いた自転車があった。

「アイ・ライク・ラビット！」

ミズ・スーザンだった。返事をするひまもなく、自転車は遠くまで走っていった。

「お前！ うさぎが好きなのか」

「僕じゃないですよ。ミズ・スーザンです」

どうも、調子を狂わされっぱなしの相田守であった。

「僕、ブラスバンドに入ろうと思ってるんです」

言った克久もびっくりした。何か答えなきやいけない、答えなければと、おどされている心持ちに「そうすネ」と言う返事以外は全部、消えてしまっていたから、いったい、どこから、そんな答えが出たか解らなかった。

胸の中でうさぎがぎよろりと目玉を動かした。きよろりと克久の顔を見たらうさぎは、お尻しりを向けると、ぴよんぴよんとはねて行ってしまった。

「ブラスバンドって、あのブンチャカなの！」

ばかじゃんとして続けかけて、相田守は、先刻さつきから同じ文句を自分が繰り返しているのに気付いた。これでは、なんとかの一つ覚えで、ちっとも威力いはない。そこに気付いたものの、調子を狂わされっぱなしの彼としては、黙り込むよりほかにとりあえずの手立てはなかった。冷やかな悪口の在庫なら山ほど仕入れてあるはずなのに、黙るほかないのは彼としてはかなり心外な現実だった。

ひよっとして、「こいつ」はと、克久はそれまで考えてもみなか

ったことを考えたのは、赤い夕陽が並んだ団地の向こうに沈しずんでいこうとしている時だった。

ひよっとして、こいつは俺おれと張り合っているんじゃないか？

⑤考えてみたこともなかったことを二つもいっぺんに考えるなんて、これはどうしたことだろう。オレ、何ヲ考エテイルンダロウ。頭の回転が速くなったのか、遅くなったのか、そのところは見当がつかないけれど、克久は確かに「オレ」を使ってものを考えていた。だから、⑥相田を呼ぶのも「君」になった。

「君、野球とサッカーのどちらに入るの？」

「吹奏すい楽なんて、お前、朝から晩までブウブウ、ドンチャカやって、どこがおもしろいんだか解りやしない」

「君だったら、野球でもサッカーでもレギュラーになれるじゃないか」

「前に聞いたんだけど、すげえ、金かかるってさ。森のやつ、マジで高い楽器を買えって言うんだって。おふくろが言ってたぞ。中学生になんでそんな高い楽器が必要なんだって」

相田が調子を取り戻そうとしていた。

「つまんなかったら、部活なんて入らなけりゃいいじゃないか」

相田は調子を取り戻そうとしたが、克久との会話はぜんぜん噛かみ合わなかった。

「お前、あんなもん、女がやるもんだぞ。座ったきりで動かないんだから。中学生のうちは身体からだを使っておけって親父おやじが言っていた」

「君はお父さんやお母さんの言うことをよく聞く人なんだ」  
言ってしまったから、余計なことを喋ったと後悔した。

(「楽隊のうさぎ」 中沢けい)

(一) ① 相田の絶えずあいまいに微笑を浮かべた表情 は克久にはどのように感じられますか。最も適当なものを次のアからエの中から選びその記号を書きなさい。

ア 相田からの親しさの表れと感じられる。

イ 相田の以前自分にしたことに対するうしろめたさの表れと感じられる。

ウ 相田が自分に好意を持っているように感じられる。

エ 相田が何を考えているのか分からないので不気味に感じられる。

(二) 本文中の ( A ) に入る言葉として最も適当なものを、次のアからエの中から選びその記号を書きなさい。

ア 甘い    イ 冷たい    ウ 優しい    エ 悲しい

(三) ② 相田は小学生の時、そんなふうに克久に返事をさせようとしたけれど、失敗していた。とあるが、克久がどうすることが失敗になるのか答えなさい。

(四) ③ まずい と克久が感じる理由を解答欄に合うように本文中から十六字で抜き出して答えなさい。

(五) ④ 「これって、異文化？」とあるが、「これ」とは具体的にどのようなことを指しているか答えなさい。

(六) ⑤ 考えてもみなかったことを二つもいつぺんに考えるなんてとあるが、何と何を考えたのか答えなさい。

(七) ⑥ 相田を呼ぶのも「君」になった。とあるように克久の相田に対する呼び方が変わったのはなぜか答えなさい。





